

第33回「放送文化基金賞」

財団法人放送文化基金(理事長 河竹 登志夫)では、第33回放送文化基金賞を次のとおり(詳細別紙)決定しました。

1 番組部門 13番組、6件

- (1) テレビドキュメンタリー番組..... 5番組
本賞 1 優秀賞 1 テレビドキュメンタリー番組賞 3
- (2) テレビドラマ番組..... 4番組
本賞 1 優秀賞 1 テレビドラマ番組賞 2
- (3) ラジオ番組..... 4番組
本賞 1 優秀賞 1 ラジオ番組賞 2
- (4) 個別分野賞..... 6件
 - 「出演者賞」 2件
 - 「企画賞」 1件
 - 「制作賞」 1件
 - 「脚本賞」 1件
 - 「特別賞」 1件

2 個人・グループ部門 8件

- (1) 放送文化..... 4件
- (2) 放送技術..... 4件

受賞番組、受賞者には、賞状、賞牌・トロフィー、賞金を贈呈します。

賞金は、番組部門・本賞 200万円、優秀賞 100万円、各番組賞 50万円、番組部門の個別分野賞 各30万円(特別賞は記念品)、個人・グループ部門 各50万円です。

なお、贈呈式は、平成19年6月15日(金)午後4時30分から千代田放送会館ホール(東京都千代田区紀尾井町)で実施します。

お問い合わせ先 放送文化基金(担当 小野寺、安部、馬越)
東京都渋谷区宇田川町41-1 共同ビル5F
(03)3464-3131

第33回「放送文化基金賞」受賞一覧

部 門	賞 (賞金)	受賞者	番組名・業績
部 門	テレビドキュメンタリー番組	本賞 (200万円)	NHK NHKスペシャル 硫黄島玉砕戦 ～生還者61年目の証言～
		優秀賞 (100万円)	NHK NHKスペシャル ワーキングプア ～努力すれば抜け出せますか～
		(50万円)	札幌テレビ放送 NNNドキュメント'06 まっすぐに智華子～全盲の少女 母の待つゴールへ～
		テレビドキュメンタリー番組賞 (50万円)	山口放送 KRY報道特別番組 祖国とは～ドミニカ移民の50年～
	(50万円)	NHK NHKスペシャル 日中戦争～なぜ戦争は拡大したのか～	
	テレビドラマ番組	本賞 (200万円)	NHK 土曜ドラマ ハゲタカ
		優秀賞 (100万円)	日本テレビ放送網 水曜ドラマ ハケンの品格
		テレビドラマ番組賞 (50万円)	WOWOW ドラマW チルドレン
		(50万円)	NHK、NHKエンタープライズ 土曜ドラマ 魂萌え!
	ラジオ番組	本賞 (200万円)	IBC岩手放送 録音風物誌・いわてスペシャル! すがちこいわい 秘謡 水口御祝 を唄い継ぐ中学生たち
		優秀賞 (100万円)	NHK FMシアター 髪にふれる
		(50万円)	東海ラジオ放送 アキラの地雷博物館 ～元少年兵の選択～
		ラジオ番組賞 (50万円)	日経ラジオ社 特別番組 イ・ヒア ショパンの調べ
	個別分野	出演者賞 (30万円)	高畑 淳子 「魂萌え!」の演技
		出演者賞 (30万円)	大森 南朋 「ハゲタカ」「チルドレン」の演技
企画賞 (30万円)		春原 雄策、中嶋 太一 「ワーキングプア」の企画	
制作賞 (30万円)		関 芳樹 「秘謡《水口御祝》を唄い継ぐ中学生たち」の制作	
脚本賞 (30万円)		中園 ミホ 「ハケンの品格」の脚本	
特別賞		小野 智華子 「まっすぐに智華子」の出演	
個人・グループ部門	放送文化	(50万円)	池尾 優 (国際メディア・コーポレーション エグゼクティブ・プロデューサー) 自然・科学番組分野での国際交流、国際共同制作の推進
		(50万円)	横山 隆晴 (フジテレビ ゼネラルプロデューサー・ ディレクター) 『泣きながら生きて』に至る「中国シリーズ」をはじめとした優れたドキュメンタリー番組の制作と演出
		(50万円)	『題名のない音楽会21』制作スタッフ (テレビ朝日) 2000回にわたる高品質で親しみやすいオーケストラ番組の制作
		(50万円)	NHK『鑑賞マニュアル 美の壺』 制作グループ (NHK、NHKエデュケーショナル) 暮らしの中の身近な和の魅力を再発見するという新しい切り口の美術番組の制作
	放送技術	(50万円)	「小規模テレビ共同受信施設向け光システム」開発グループ 代表 久保 歳弘 (NHK) 「小規模テレビ共同受信施設向け光システム」の開発と実用化
		(50万円)	窪内 誠 (読売テレビ) フラッドライトの開発
		(50万円)	桂 信生 (北海道放送) 「ヘリコプター用送電線鉄塔警告システム」の開発
		(50万円)	「超高速度高感度CCDカラーカメラ」 開発グループ 代表 丸山 裕孝 (NHK) 「超高速度高感度小型カラーカメラ」の開発と実用化

* 番組部門の各番組賞と個人・グループ部門は、受付順による。

第33回 放送文化基金賞

「番組部門」

テレビドキュメンタリー番組

本賞

タイトル・放送日・制作	スタッフ・出演者等	梗概	選考理由
NHKスペシャル 硫黄島玉砕戦 ～生還者61年目の 証言～ 平成 18.8.7(月) NHK	制作統括 角 英夫 ディレクター 内藤 誠吾 取材 山岸 秀樹 リサーチ 山本 出 撮影 柳原 緑 編集 石原 徹也 音響効果 榎戸 一夫 語り 小野さおり 出演 長谷川勝彦 金井 啓 大越 晴則 大曲 覚 秋草 鶴次 竹内 昭 ピーター・バー ベック アル・パー ジェラルド・クラ ッチ	61年前、日米両軍の死闘が行われた硫黄島。日本の守備隊2万1000人のうち生還したのはわずか1000人。最高指揮官、栗林中将は、3月17日に戦死。硫黄島は、玉砕の島となる。しかし、それ以降も、島の地下壕には数千人の兵士が潜んでいた。番組は、アメリカ側の記録と日米双方の元兵士の証言を掘り起こし、戦いの経過を克明にたどる。地下壕の籠城は、3月、4月、5月と続いた。出口のない戦闘は、兵士たちの人間性を奪う。投降した兵士を拳銃で撃つ将校。飲み水をめぐっての殺し合い。米軍も、次第に抑制を失う。地下壕の入り口を爆破しての生き埋め。海水とガソリンの注入が始まる。燃えるガソリンと大火傷を負う日本兵。戦後、多くを語らず静かに生きてきた生還者たちは、あの戦場で何を見たのか。戦争の苛烈さ、むごさが今も記憶をさいなむ。	栗林中将が戦死した3月17日以降に、硫黄島で続いていた事実を初めて番組として明らかにした。投降を禁じた日本軍のあり方。極限状況の中で失われていく人間性。生還者たちの証言は、戦争がいかに悲惨でむごいものかを示し、限りなく重い。硫黄島の戦いの真の姿を描きながら、戦争とは何か、何をもたらすのかを痛切に訴えかける作品となっている。

優秀賞

タイトル・放送日・制作	スタッフ・出演者等	梗概	選考理由
NHKスペシャル ワーキングプア ～努力すれば抜け出 せますか～ 平成 18.12.10(日) NHK	制作統括 春原 雄策 ディレクター 中嶋 太一 池本 端 取材 横井 秀信 松島 剛太 海野由紀子 岩田 敏志 板倉 弘政 戸田 有紀 田川 宜幸 語り 森本 健成 キャスター 鎌田 靖 音響効果 小野さおり 撮影 鈴木 一法 木下 豊 編集 吉尾 彩子 八角 勝利 音声 服部 吉隆 五十嵐清治	「働いても働いても豊かになれない。」2005年に放送された『ワーキングプア』は生活保護水準以下の暮らししかできない“働く貧困層”の厳しい現実を見つめ、大きな反響をよんだ。その第2弾。朝から深夜まで、2つのパートを掛け持ちしながら2人の子どもを育てている母子家庭の母親。中国からの安価な労働力の流入で、さらなるコストダウンを迫られる岐阜の零細繊維業者。年金だけでは暮らして行けず、80歳になっても空き缶を回収して生計を立てるお年寄り。3人の姿を通して、誰にでも起こりうる“新たな貧困”の現実を明らかにし、努力だけではどうすることもできない、今の日本が抱える様々な社会構造上の問題を浮かび上がらせた。	真面目に働き、努力しても豊かになれない歪んだ日本の状況を端的に描き、厳しく問題に迫っている。規制緩和やグローバル化の中で、新たな“貧困層”が生まれている現状を深く取材して、テレビメディアとしての責務と力量を十分に発揮した作品。

テレビドキュメンタリー番組賞

タイトル・放送日・制作	スタッフ・出演者等	梗概	選考理由
<p>NNNドキュメント'06 まっすぐに智華子 ～全盲の少女 母の 待つゴールへ～</p> <p>平成 18.7.2(日)</p> <p>札幌テレビ放送</p>	<p>プロデューサー 萬谷慎太郎 ディレクター 星野 輝一 カメラ 桜居 大祐 音声 穴吹 昌芳 編集 沼田 哲治 アシスタント・ディレクター 高橋 明子 音響効果 三上 利恵 レコーディング 森中 慎也 出演 小野智華子</p>	<p>小野智華子ちゃん(11歳)は全盲の少女。そんな彼女の大きな夢は、大好きな水泳でパラリンピックに出場すること。</p> <p>水泳の腕試しにと参加したトライアスロン大会、母の手を借りずに歩いた一人登校、そして反抗期…。様々な経験を通してパラリンピックを目指す。その出場のために避けられないのが「ジャパンパラリンピック大会」での成績。挫折を味わいながら迎えた仙台大会で出場を決める。厳しいが温かい母の愛を受けながら人間的に成長して行く娘と母の3年間を追い、あらためて「親子の絆」を伝える。</p>	<p>光さえ感じることでできない全盲の少女が、夢に向かって努力している姿に、眩しいほどの生命力を感じさせる。親の厳しさと愛情の深さにも感銘を受ける作品となっている。</p> <p>地方民放局で長期間にわたり取材をしている点にも好感がもてる。</p>
<p>KRY報道特別番組 祖国とは ～ドミニカ移民の 50年～</p> <p>平成 18.12.28(木)</p> <p>山口放送</p>	<p>プロデューサー 竹村 昌浩 ディレクター 長尾 聡 カメラ 伊藤 惣一 撮影 山本 透 村河 敏明 編集 本村 治 音声 吉田 清治 EED 足立 邦昭 出演 山本 福槌 山本シゲ子 山本 英雄 山本 新二 国分 義視 木村 庫人 笠原 清次 嶽釜 徹</p>	<p>広大な土地が無償譲渡されるその言葉を信じて千人を越える人々がドミニカに渡ったのは終戦からまだ10年。日本は貧しく人口は急速に増えていた。移民は国策でもあった。だが、約束された地は水も無く譲渡もされない。約半世紀を経た2000年、移民たちはついに祖国日本を相手に、謝罪と損害賠償を求めた。が、6年後に出た判決は国の違法行為は認めつつ、損害賠償は時の経過を理由に斥けた。その1か月後、国の謝罪が行われたのは、控訴した移民たちの取下げが条件だった。</p>	<p>山口放送が県出身の移民の一家を中心に、10年にわたり追い続けたテーマで、地方局ならではの頑張りが感じられる。</p> <p>スタッフの取材力により、一家のたどった運命を丹念に描いている。</p>
<p>NHKスペシャル 日中戦争 ～なぜ戦争は拡大したのか～</p> <p>平成 18.8.13(日)</p> <p>NHK</p>	<p>チーフ・プロデューサー 塩田 純 東野 真 伊藤 純 山本 展也 鎌倉 英也 太田 宏一 田畑 壮一 宮本 康宏 長谷川勝彦 日昔 吉邦 浅野康治郎 相馬 大輔 北森 朋樹 佐々木隆夫 鈴木 彰浩</p>	<p>1937年、盧溝橋事件に始まった日中戦争は、やがて太平洋戦争へと泥沼の道突き進んだ。一撃で倒せる、と考えた日本軍の甘い状況認識の陰には、満州事変の経験があった。出先軍の独断による首都・南京攻略への進軍、これを追認した日本政府。</p> <p>初めて公開された蒋介石の日記からは「世界への広報」という国際戦略が浮かび上がる。番組は、2国間だけでなくアメリカやドイツも含めた国際的な視野で、その戦争拡大の原因を明らかにしていく。</p>	<p>公開された蒋介石の日記を中心に、多くの資料を丹念に調べ、日中戦争を多角的に描いた。</p> <p>日本と中国それぞれの視点から番組が構成されており、説得力がある。</p>

第 3 3 回 放送文化基金賞
「番組部門」
- テレビドラマ番組 -

本 賞

タイトル・放送日・制作	スタッフ・出演者等	梗概	選考理由
土曜ドラマ ハゲタカ 平成 19.2.17(土) ~ 3.24(土) 全 6 回 応募は、第 1 回、3 回 NHK	原作 真山 仁 脚本 林 宏司 音楽 佐藤 直紀 制作統括 阿部 康彦 プロデューサー 訓覇 圭 演出 大友 啓史 井上 剛 堀切園健太郎 美術 山口 類児 技術 小笠原洋一 音響効果 島津 楽貴 撮影 清水昇一郎 照明 久慈 和好 音声 高橋 英明 映像技術 大西 康仁 編集 大庭 弘之 美術進行 佐藤 綾子 出演 大森 南朋 松田 龍平 栗山 千明 宇崎 竜童 富士真奈美 菅原 文太 大杉 漣 田中 泯 中尾 彬 柴田 恭兵	1998 年、鷺津政彦(大森南朋)は、外資ファンド、ホライズンの日本代表に就任。かつての勤務先、三葉銀行の不良債権、1023 億円を 53 件まとめたのバルクセールで、ただ同然の 93 億円で買い取る。三葉の担当者は、元上司の芝野健夫(柴田恭兵)、5 年ぶりの再会だったが、立場は逆転していた。 鷺津が買い取った不良債権の中に老舗旅館「西之屋」があった。鷺津に社長失格と突き放された西野昭吾(宇崎竜童)は、失意のままトラックにはねられて死亡する。(第 1 回)。2 年後、鷺津と芝野は、老舗玩具メーカーの再建をめぐる対立。再建のスポンサーを決める入札は果てしなく続く・・・(第 3 回) 日本の不良債権を買い叩く外資ファンド。それは、果たして「ハゲタカ」か、それとも企業再生の救世主か。企業買収をめぐる人間の野望と挫折を全 6 回の骨太の人間ドラマとして描く。	企業買収をキーワードに日本経済の現実をドラマ化した作品として「今日性」が高い。「金の論理」が優先するビジネスの世界を描きながら、「それでいいのか」と人間としての生き方を問いかける脚本にリアリティがある。 役柄をはっきりさせ、個性的で迫力ある演技を引き出した配役と演出も見事。 ドラマとして総合点の高い作品に仕上がった。

優 秀 賞

タイトル・放送日・制作	スタッフ・出演者等	梗概	選考理由
水曜ドラマ ハケンの品格 平成 19.1.10(水) ~ 3.14(水) 全 10 回 応募は第 1 回、4 回、8 回 日本テレビ放送網	脚本 中園 ミホ プロデューサー 樫山 裕子 ディレクター 南雲 聖一 プロデューサー 内山 雅博 出演 篠原 涼子 加藤 あい 小泉 孝太郎 大泉 洋 松方 弘樹 ほか	時給は 3000 円。しかし、愛嬌はゼロ。超一流の派遣社員、大前春子(篠原涼子)が、丸の内にある老舗の食品会社にやってきた。定時ちょうどに帰ってしまふし、社員の里中賢介(小泉孝太郎)や東海林武(大泉洋)に対しても、言いたい事をずけずけ言う。仕事の上に徹し、わずらわしい会社の人間関係には一切関わらない。そして口癖は「それが何か?」である。 スーパーハケンの大前は、クレーン車の運転資格など驚くほどさまざまな資格を持つ。正社員を尻目に、次々に起こる問題や難題を解決していく大前。痛快な展開にひきこまれるうちに仕事とは何かを考えさせられる。	今や 300 万人を超えるといわれる派遣という雇用形態に焦点をあて、民放らしいアプローチで企業社会の内実に向かっている。バブル崩壊後の日本社会の一面を独自の目線で切り取り、考えさせられるドラマ。 また、役者ひとりひとりの個性と良さが見事に引き出されていることに、脚本の力を感ずる。

テレビドラマ番組賞

タイトル・放送日・制作	スタッフ・出演者等	梗概	選考理由
<p>ドラマW チルドレン</p> <p>平成 18.5.21(日)</p> <p>WOWOW</p>	<p>企画統括 山本 均 プロデューサー 青木 泰憲 協力プロデューサー 浦井 孝行 河角 直樹 監督 源 孝志 出演 坂口 憲二 大森 南朋 小西真奈美 加瀬 亮 三浦 春馬 國村 隼 ほか</p>	<p>真面目な性格の家庭裁判所調査官・武藤(坂口憲二)は先輩・陣内(大森南朋)と銀行強盗事件に巻き込まれる。武藤は一緒に人質になっていた美春(小西真奈美)に一目ぼれ。美春は過去の万引き癖がトラウマとなっていた。職場での武藤は、不器用な面があり、子供たちに馬鹿にされてしまうことしばしば。そんな中、武藤は万引きで補導された少年・志朗を担当する。しかし、志朗の父親に対する様子には何か違和感があった。そして、武藤は、少年と父親の秘密を知り、事態は思いがけない展開をたどる。</p>	<p>これまでのテレビドラマにはない、現代感覚あふれる洒落た作品に仕上がっている。主人公の二人が実に魅力的かつ存在感たっぷりに描かれている。後半のストーリー展開はドラマならではの意外性に富み、視聴後もしばし余韻漂う作品である。</p>
<p>土曜ドラマ 魂萌え!</p> <p>平成 18.10.21(土) ~ 11.4(土) 全3回 応募は第1回、3回</p> <p>NHK、NHKエンタープライズ</p>	<p>原作 桐野 夏生 脚本 斉藤樹美子 音楽 スパニッシュ・ネグション 演出 吉川 邦夫 制作統括 岩谷可奈子 出演 佐野 元彦 高畑 淳子 高橋 恵子 山本 太郎 酒井 美紀 宇梶 剛士 小柳ルミ子 仁科亜希子 木野 花 村井 国夫 猫背 椿 麻生美代子 ほか</p>	<p>関口敏子(高畑淳子)は50代の専業主婦。夫の定年退職を間近にしたある日、夫・隆之(大和田伸也)が急死する。夫の相続など様々な問題が一気に降りかかる中で、夫が10年もの間浮気をしていたことを知る。他人との出会い、初めて味わう世間の厳しさ…。そして、夫の知り合いとの新たな恋、独立しながらも未だ大人になりきれない子どもとの決別、そして夫の愛人との戦い。敏子は全てを乗り越えながら、新たな人生を一人で切り開く決意を固める。魂萌えの時だ。</p>	<p>夫に先立たれた50代の平凡な専業主婦が、夫の裏切りを知ってから、新たな人生を切り開く決意を固め、新たな生命力が萌えていく過程を実にリアルに描いている。高畑淳子が主人公の心情の変化を的確に演技し、愛人役の高橋恵子との対決シーンは見応え十分である。スパニッシュギターの音色も登場人物の感情を表現するのに効果的であった。</p>

第33回 放送文化基金賞
「番組部門」
ラジオ番組

本 賞

タイトル・放送日・制作	スタッフ・出演者等	梗概	選考理由
録音風物誌・いわて スペシャル！ 秘謡 氷口御祝 を唄い継ぐ中学生たち 平成 19.3.19(月) I B C 岩手放送	企画・制作 関 芳樹 ・構成・取材 レージョ 大塚 富夫 出演 (氷口御祝保存会) 会長 菊池 栄一 副会長 菊池 キヨ (遠野市立小友中学校) 3年生 11名 校長 湊 恵幸 音楽教師 菊池ゆかり 姫神・星 吉昭(故人)	民話のふるさと岩手県遠野市 小友町氷口地区に伝わる秘謡、 氷口御祝(すがぐちごいわい)、 男声の謡曲と女声の民謡、旋律 も歌詞もまったく違う二つの曲 を同時に唄う他に例をみない儀 式唄だ。 地域が守り育ててきたこの伝 統芸能を受け継ごうと、小友中 学校の3年生11人は、総合学習 の時間に全員で御祝に取り組 む。指導は、保存会の会長と副 会長。最初は、恥ずかしがって 声がでなかった生徒たちも、次 第に声質が揃ってくる。地区の 新年交賀会で、8か月に及んだ練 習の成果が披露される。「高 砂」、「四海波」、「春栄」。最後 に、男声と女声と一緒に唄う「み やこ節」をぴたりと唄い収めると 大きな拍手が会場に響く。江 戸時代から伝わる伝統芸能が次 の世代に引き継がれた瞬間だ。	地域の伝統芸能を引き 継ぐ中学生の姿が生 き生きと描かれてい る。 過疎化が進む中で、 中学生たちが地域に誇 りと愛着を持って練習 に励んでいる事がよく 分かり、地域色豊かな 番組となっている。 世界的にも例がない 氷口御祝、全4曲を 若々しい中学生の声で 9分間にわたってその まま聞かせる構成が聴 く者を惹きつける。

優 秀 賞

F Mシアター 髪にふれる 平成 19.1.13(土) N H K	原作 今村 恵子 脚色 小松 與志子 音楽 荻野 清子 制作統括 六山 浩一 技術 西田 俊和 音響効果 嶋野 聡 演出 真銅 健嗣 長崎ことば 大竹 周作 指導 出演 白川 和子 山本 学 山口 果林 花原 照子 絆 てつや 大竹 周作 鈴木ゆうじ ほか	長崎のとある町。熟年になる まで夫婦で理髪店を営んできた 朋子と康之。ところが、康之が 脳梗塞に倒れ、朋子は介護に追 われることに。夫は右半身に後 遺症が残り、店の営業もままな らなくなる。鋏を持って仕事を したいという強い気持ちとは裏 腹に、動かない体。夫は徐々に 気難しい人間に変わっていく。 朋子は、短気になった夫との 闘病生活に疲れる中、高校の同 窓会で、長年疎遠になっていた 親友の美佐子と久しぶりに再 会。美佐子が介護している認知 症の姑・サトの出張理髪を依頼 される。朋子は久々の散髪をし ながら、仕事への自信を回復し、 認知症のサトにふれることで、 夫の変化は夫自身の問題ではな く、病気のせいだと気づき、夫 への理解と愛情を取り戻す。	介護が必要になった 夫とその妻の、老年の 悩み・愛情を、温かく、き め細かく描いた上質なド ラマである。 高齢者を介護するの が、若い世代だけでは なく、ほぼ同じ年代の高 齢者同士の介護になっ ている問題をとりあげ、 介護の実情を描く一方、 病気や老いとの共生へ の希望を示している。 日常の何気ない言葉 のやりとりを通じてストー リーが自然に展開し、出 演者の演技力も光って いる。
--	--	---	---

ラジオ番組賞

タイトル・放送日・制作	スタッフ・出演者等	梗概	選考理由
<p>アキラの地雷博物館 ～元少年兵の選択～</p> <p>平成 18.5.27 (土)</p> <p>東海ラジオ放送</p>	<p>企画・制作 安 蒜 豊三 ・構成 レ・ジョン 安 蒜 豊三 川 島 葵 構成補 川 崎 慎也 音声 坂 口 雅之 協力 阿 部 正子 出演 アキ・ラー 野 口 博史 菊 佳織</p>	<p>カンボジア青年アキ・ラーさん。推定 32 歳。日本人の名前に似ていることから「アキラ」と呼ばれている。ひとりで 3 万個の地雷を処理し、アンコールワット近くに地雷博物館をつくった。アキラは、5 歳のころに両親をポルポト軍に殺害され、生きるために、少年兵として数え切れないほどの地雷を埋めた。戦争が悪いことなのかどうなのかもわからない子どもだった。平和が戻った今、その場所を知っているのは埋めた自分だからと、10 年前からひとりで地雷を掘り始めた。それが、カンボジアの元少年兵としての彼が選んだ生き方だった。</p>	<p>カンボジアで問題となっている地雷をひとりで処理する青年を描くドキュメンタリー。主人公のアキラの生きる想い、強さが、たどたどしい日本語から伝わってくる。そのたどたどしさが残る日本語と、それを引き出そうとするインタビュアーの優しい熱意とが、印象的である。</p>
<p>特別番組 イ・ヒア ショパン の調べ</p> <p>平成 18.5.28 (日)</p> <p>日経ラジオ社</p>	<p>企画・制作 宮 崎 裕一 ・演出・効果 出演 黄 莉 香 金 栄 姫 イ ヒア ウ カプスン</p>	<p>先天性の四肢障害のため、4本の指でショパンを演奏する韓国人ピアニスト、イ・ヒア。韓国人留学生・金栄姫と、在日華僑 3 世・黄莉香がメールのやりとりの中で、彼女の辿った道を振り返る。</p> <p>母親は、ヒアがピアノに取り組むことで、障害を乗り越えて生きていけると考え、あえて厳しく指導する。ヒアは反抗するが、母親の病気をきっかけに、真剣にピアノに取り組むことになる。</p> <p>障害を隠して臨んだピアノコンクールで、彼女は見事優勝し、ピアニストへの道を歩みだす。</p>	<p>メールのやり取りで番組を展開していく構成が新鮮で、説得力がある。</p> <p>背景音にもイ・ヒア自身のピアノ演奏がふんだんに使われており、内容にさらに深みが増し、心を打つ作品となっている。</p>

第33回放送文化基金賞

「番組部門」 - 個別分野 -

出演者賞

受賞者	対象番組	選考理由等
たかはた あつこ 高畑 淳子	魂萌え！ (NHK、NHKインタープライズ) テレビドラマ番組	夫に先立たれた50代の平凡な主婦がみせる繊細な感情のさざめきや、女の情念と強さと弱さを見事に表現している。新しいホームドラマを誕生させたその表現力の繊細さと大胆さを評価したい。

出演者賞

おおもり なお 大森 南朋	ハゲタカ(NHK) チルドレン(WOWOW) テレビドラマ番組	「ハゲタカ」では、銀行員時代の屈折感を心の底に封印した投資ファンドのマネージャーを、不気味なほどクールに演じ切った。一転して「チルドレン」では、型破りの家裁調査官をコミカルに演じ、作品に躍動感をもたらした。
------------------	---------------------------------------	---

企画賞

すのほら ゆうさく 春原 雄策 なかじま たいち 中嶋 太一	ワーキングプア (NHK) テレビドキュメンタリー番組	「ワーキングプア」という言葉を急速に広めるきっかけとなった番組であり、日本が抱える社会構造上の問題を浮かび上がらせたことは評価される。
---	-----------------------------------	---

制作賞

せき 芳樹 関 芳樹	秘謡《氷口御祝》を唄い継ぐ中学生たち (IBC岩手放送) ラジオ番組	地域の伝統芸能を引き継ぐ中学生の姿が生き生きと描かれている。儀式歌として他に例がない氷口御祝全4曲を9分間にわたってそのまま聞かせる、素材を生かした構成が、聴く者を惹きつける。
---------------	--	--

脚本賞

なかその ミホ 中園 ミホ	ハケンの品格 (日本テレビ) テレビドラマ番組	「ハケンの品格」は、バブル崩壊後の日本社会の一断面を独自の目線で切り取り、雇用形態が流動化している現代を浮き彫りにしている。役者ひとりひとりの個性と良さが見事に引き出されていることに、脚本の力を感じる。ドラマの完成度を高めた。
------------------	-------------------------------	---

特別賞

おの ちかこ 小野 智華子	まっすぐに智華子 (札幌テレビ放送) テレビドキュメンタリー番組	全盲という障害を抱えた少女が、夢に向かって懸命に生きる姿はさわやかで力強く、見る者に感動を与える。
------------------	--	---

第33回放送文化基金賞

「個人・グループ部門」

- 放送文化 -

受賞者	業績	業績内容・選考理由
いけあ まさる 池尾 優 (国際メディア・コーポレーションエグゼクティブ・プロデューサー)	自然・科学番組分野での国際交流、国際共同制作の推進	NHK で長年、自然・科学関連の番組制作を手掛ける一方、世界各国の放送局、制作者との交流、協力を推進。国際共同制作で、『NHK スペシャル プラネット・アース』に結実するスケール感あふれる自然番組の制作に尽力した。同時に、世界の制作者に向け、ハイビジョンでの新しい番組制作技法を広め、サポートすることに大きく貢献。日本の放送界に良質な科学・環境番組を提供し続け、世界の科学プロデューサーのネットワーク構築に尽力した功績は大きい。

受賞者	業績	業績内容・選考理由
よこやま たかはる 横山 隆晴 (フジテレビゼネラルプロデューサー・ディレクター)	『泣きながら生きて』に至る「中国シリーズ」をはじめとした優れたドキュメンタリー番組の制作と演出	『泣きながら生きて』(2006年)は、家族のために日本で働く中国人男性の生活を10年間取材し、上海に離れて暮らす妻と娘との再会と別れを織り交ぜ、圧倒的な時間の重みをもって家族の絆を淡々と描いた作品。『小さな留学生』(2000年)をはじめ、中国人ディレクターの張麗玲氏らと共に手がけた「中国シリーズ」の集大成。長期間の取材の中で、取材対象と同じ目線に立ち、家族、国、歴史という普遍的なテーマを作品にこめた制作活動が高く評価された。

受賞者	業績	業績内容・選考理由
『題名のない音楽会21』制作スタッフ (テレビ朝日)	2000回にわたる高品質で親しみやすいオーケストラ番組の制作	2006年12月に放送2000回を迎えた。1964年、日本ではなじみの薄かったオーケストラ音楽を普及させるために開始され、「高品質で親しみやすい音楽を」をモットーに、独自の手法で多ジャンルにわたる音楽を紹介。2004年からはHD並びに5.1chサラウンドのレギュラー放送という最新技術に取り組んだ。近年では幼少期に番組を見て音楽家を志し、その後演奏家になり同番組に出演するというような成果もあり、番組制作への継続的な努力が評価された。

受賞者	業績	業績内容・選考理由
NHK『鑑賞マニュアル 美の壺』制作グループ (NHK、NHKエデュケーショナル)	暮らしの中の身近な和の魅力を見出すという新しい切り口の美術番組の制作	『美の壺』は、美術館に展示される高尚なファインアートではなく、やきもの・染色・工芸など暮らしを彩る品々に焦点を当てた新しい切り口の美術番組。三つの鑑賞法をわかりやすく提示して和の魅力を見出す工夫。箸や風呂敷、金魚に至るまで日本人に普段なじみのある日本の文化を題材に、美しい映像とジャズのBGM、ナビゲーター谷啓の洒落な語りを組み合わせる斬新な演出で、大人が楽しめる新しい形の美術番組として評価された。

第33回放送文化基金賞

「個人・グループ部門」

- 放送技術

受賞者(所属)	業績	業績内容・選考理由
「小規模テレビ共同受信施設向け光システム」開発グループ 代表 久保 歳弘 (NHK)	「小規模テレビ共同受信施設向け光システム」の開発と実用化	小規模な難視聴地域などで設置されている共同受信システムの光ケーブル化をローコストで実現した。従来の同軸ケーブル方式と比べて、機器が簡単なため故障が少なく、また落雷による被害も少ないので、安定的な運用と維持経費の低減が期待できる。平成17年度より更新を迎えたNHK共聴施設、150か所で実用化している。今後NHK共聴施設の更新にさらなる利用が期待できる。

受賞者(所属)	業績	業績内容・選考理由
窪内 誠 (読売テレビ)	フラッドライトの開発	スタジオ照明に使用している従来のフラッドライトは棒状電気球で、点滅による熱サイクルで破裂や端子の焼き付きがあった。今回開発したフラッドライトはガラス管を二重構造とし、間に窒素ガスを注入し発熱を防ぎ、破裂や焼き付けを防止し、また全体をカートリッジ化して交換を容易にした。電球の寿命はこれまでより約20%増加し、安全性、効率性、操作性が著しく向上した。

受賞者(所属)	業績	業績内容・選考理由
桂 信生 (北海道放送)	「ヘリコプター用送電線鉄塔警告システム」の開発	ヘリコプターからカメラ撮影する場合、障害となる飛行周辺の送電線と鉄塔を画面上に表示し、送電線などに接近した場合、設定した条件でアラームを表示する警報システムを開発した。この警報システムは全国で約8万5千本ある送電線データを必要に応じて表示することができる。見えにくい送電線に接近した場合でも、ヘリコプターからのカメラ撮影時の安全確保に寄与している。

受賞者(所属)	業績	業績内容・選考理由
「超高速度高感度CCDカラーカメラ」開発グループ 代表 丸山 裕孝 (NHK)	「超高速度高感度小型カラーカメラ」の開発と実用化	撮影速度が1秒間に最大100万枚で、感度がこれまでの約10倍ある30万画素CCDカラーカメラを開発した。実用例では、野球やゴルフ中継番組でボールのインパクトの瞬間を捉えた映像や科学番組では動物の素早い動きを観察した映像の撮影に成功している。このカメラは小型で機動性にも優れているため、放送番組のみならず、今後の産業、医療、学術などの分野にも応用が期待できる。